



市民にしわよせする 財政状況なのか

河合 克平議員

持続可能な行政基盤のため必要な選択だ
総務部長

令和8年度の主な負担増(合計2億9362万円)	
精神障害で入院されている方へ医療費の有料化	514万円
在宅障害者扶助料の大幅削減	6262万円
原子爆弾被爆者健康管理手当の大幅削減	52万8千円
総代取りまとめ地域内側溝、舗装工事費減額	5500万円
0-2歳児の保育料の負担増	1300万円
中学生の給食費の負担増	4070万円
毎年値上げ予定の国民健康保険税の負担増	1億1664万円

▲令和8年度歳出削減、市民負担増

問 2つの財政問題の1点目、基金の有価証券運用をし、含み損が発生、基金の流動性が損なわれた。債券売買の決裁を市長が知らない、各課、各部への共有なし、1320万円の損失は当年度の利息と相殺された。含み損の責任は誰にもないが市の見解だが、含み損は1月時点で26億円。今の金額は。

答 債券75本、額面と評価額との差額は約40億円。

問 道の駅HASUパークの建設費用は巨額な投資だ。建設費用、維持管理費、借金返済額は。

答 建設費用約50億7800万円。維持管理費は、令和7年度から16年度の10年間の指定管理料、約8億2800万円。7年度末までの返済見込み額は、元利合計約1億5600万円。

問 令和6年度の決算で近隣自治体の基金の状況を確認すると、愛西市が市民1人当たり27万6848円でトップクラスだ。厳しい財政状況として、市民にしわよせをする状況ではないのでは。

答 7年度末の基金残高が前年度比で約3億50

近隣自治体と比べ
基金は多い

00万円減少する見込みであることは、財政構造がいまだ基金に依存する赤字体質であり、財政の硬直化が年々進行している現状において、これを将来への警鐘と捉え、一段と気を引き締めたかじ取りが必要であると認識している。

含み損状況		令和7年12月末	令和7年1月末
全期間	額面残高	126億円	129億円
	損失	40億2142万円	26億円
満期まで5年未満	額面残高	4億円	6億円
	損失	128万円	180万円
満期まで5-9年	額面残高	8億円	6億円
	損失	6349万円	3000万円
満期まで10-19年	額面残高	42億円	45億円
	損失	8億7840万円	5億6000万円
満期まで20-29年	額面残高	59億円	59億円
	損失	24億2281万円	16億円
満期まで30-39年	額面残高	13億円	13億円
	損失	6億5543万円	4億4000万円

▲国債運用の含み損額